

ニューズレター雪氷北信越

No.70 1999年12月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

< 案内 >

新潟地区積雪調査法講習会 (2/26・長岡)

< 報告 >

富山地区学習会「最近のリモートセンシングと雪氷学-IGARSS'99に参加して-」
(7/28・富山)

富山地区学習会「地球の温暖化と雪氷学」(9/6・富山)

富山地区学習会「酸性雪のミクロの構造」(9/21・富山)

< 案内 >

1999年度新潟地区 積雪調査法講習会のご案内

[1] 講習題目：積雪調査法

[2] 日時：2000年2月26日(土) 9:00～15:30

[3] 会場：長岡市栖吉町前山187-16, 科学技術庁長岡雪氷防災実験研究所

[4] 講師：遠藤八十一氏(農水省森林総研)、和泉 薫氏(新潟大学災害研)、
佐藤和秀氏(長岡高専)、山田穰氏(長岡雪氷防災研)、河島克久氏(JR総研)

[5] 日程と講習内容：

AM 8:50～9:20 受付・班分け・昼食(カツ丼)申し込み

AM 9:30～11:30 講義(積雪調査法の概要と測器の説明)

PM 1:00～3:30 野外実習(積雪の層構造と雪質の観察、雪温・密度・積雪相当
水量・雪の含水率・雪崩ビーコンなど)

[6] 定員：16名(先着順)(少人数の場合は中止することがあります)

[7] 申込締切り日：2月15日(火)までに、申込書に所定事項を記入し、郵送または
FAXにて下記へご連絡ください。

[8] 申込先：947-0005 小千谷市旭町7-1, 小千谷高校内, 田村盛彰

TEL:0258(83)4076, FAX:0258(82)0646, 自宅TEL/FAX:0258(33)3820

[9] 参加費：テキスト・実習材料等の実費。(講習当日に領収いたします)

正会員・学生=2,000円, 団体会員・購読会員・非会員=3,000円

申し込み受付け後、改めて詳細な案内をお届けします。

講習会終了後、後日修了証を交付いたします。

(講習会担当：山田穰・佐藤和秀・田村盛彰)

積雪調査法講習会申込書

氏 名：

（正会員，団体会員，購読会員，非会員，学生）○印願います

所 属：

連絡先：住所〒

TEL：

, FAX：

< 報告 >

富山地区学習会「最近のリモートセンシングと雪氷学-IGARSS'99に参加して-」

講師：藤野和夫 北海道大学名誉教授

日時：平成11年7月28日（水） 18:00～19:30

場所：富山大学理学部2号館

最近のリモートセンシングの研究動向を電気電子関係の国際学会IEEEの中のIGARSS'99（地理学とリモートセンシングに関する国際会議）に参加された感想をまじえて話された。会議はテーマの性格を反映して、電気関係の研究者以外の異分野の人も多く、特に海洋に関する分野の研究者が多く参加した。雪に関するものでは、カナダの研究者による森林の成長を考慮して雪と混合した森林の被覆度をリモートセンシングを使って探るなどの研究や、海氷では密接度と氷厚を入れたものをセンシングする研究などが行われていることなどが紹介された。現在の傾向もそうであるが、今後は複数の周波数帯を使ったリモートセンシングや、氷河の上にリフレクター（反射板）を置いてそれを検知するなどの能動的なセンシング、あるいは雲の影響を受けにくいレーダーを使ったリモートセンシングが重要になることなどが指摘された。この分野の新たな取り組みの紹介や今後の研究動向などにも触れられた興味深い学習会であった。参加者は12名。

（石坂雅昭 記）

< 報告 >

富山地区学習会「地球の温暖化と雪氷学」

講師：中村 勉 岩手大学農学部教授

日時：平成11年9月6日（月） 18:00～19:30

場所：富山大学理学部2号館

地球の環境を考える上で雪氷圏という概念が重要であること、その中で日本海沿岸地域は高い気温で雪が降る世界でも珍しい地域であることがまず述べられた。そして、温暖化という点では、過去100～70年の気温、降水量、積雪量について、長岡・盛岡・新庄での記録からその傾向を読みとると、気温の上昇傾向が見られ、例えば盛岡では平均

気温では100年で2度の上昇があり、特に最低気温での上昇が激しく3度程度になるということなどが紹介された。その他、ヨーロッパの氷河の近年の後退傾向、グリーンランドやドームフジの最近のデータから得られた長いスパンでの気温の変動などが紹介され、温暖化を一面的に見るのではなく雪氷圏との相互作用という観点の重要性が指摘された。しかし、最近の温暖化にともない、雪への関心のうすれ、雪氷学を扱う研究組織の後退などが憂慮されること、したがってこれまでの雪氷の研究を総括しつつ基礎的な研究を強化すると同時に境界領域へ進出していく必要があると述べられた。また、雪氷学会に気候変動研究分科会があってもよいのでは、あるいは、わが国の最新の積雪分布図の作成と山岳地域の計測の持続化の重要性など、学会の将来にたいする提言もあり有意義な学習会であった。参加者は10名。

(石坂雅昭 記)

< 報告 >

富山地区学習会「酸性雪のミクロの構造」

講師：伏見碩二 滋賀県立大学教授

日時：平成11年9月21日（火） 18:00～19:30

場所：富山大学理学部2号館

春先の雪解けに伴い急激に川の酸性度が高くなる現象はacid shockと呼ばれよく知られている。北欧の川などでは、大方一度の急激な酸性化（acid shock）の後は次第に回復する傾向があるが、琵琶湖周辺地域の川では複数回のacid shockが起きていることが、講演者の観測などでわかってきた。このことから、この地域の雪粒には何層かに分かれて酸性度を高める物質が含まれていて、それが何回かの融雪の時期にとけ出し、複数回のacid shockが起きるのではないかという予想のもとに、雪粒子の中の不純物のミクロな構造を最新の技術で探ろうとする研究の過程が興味深く紹介された。この他、道路に沿って多いNOxやglobal sulfur cycle の中で6割強が人間の活動によることから、これらの環境負荷物質の我々の努力による削減の重要性や、酸性雨・雪そのものが木を枯らす問題とともに、それに痛めつけられた木に害虫が発生して枯らすという問題もあることなどが紹介され、環境問題について考える良い機会ともなった学習会であった。参加者は9名。

(石坂雅昭 記)

次号のニューズレターは2000年2月10日発行予定です。原稿は1月25日頃までにお送り下さい。

日本雪氷学会北信越支部ニューズレター

原稿送付・問い合わせ先：小南靖弘，横山宏太郎

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 北陸農業試験場 水田利用部 気象資源研究室
tel.: 0255-26-3234 / Fax: 0255-24-8578 / E-Mail: met@inada.affrc.go.jp